平成20年11月28日

各　　位

会 社 名　株 式 会 社 オオゼキ
代表者名　代表取締役会長兼社長　石原坂寿美江
（コード番号　７６１７・東証第二部）
問合せ先　取締役執行役員管理本部長　柵　山　健　哉
（TEL 03－6407－2511）

(訂正)「平成19年２月期　決算短信（非連結）の一部訂正に関するお知らせ」の一部訂正について

平成20年11月20日発表の「平成19年２月期　決算短信（非連結）の一部訂正に関するお知らせ」について、集計ミスによる一部誤りがありましたので下記のとおり訂正させていただきます。
なお、訂正箇所につきましては、訂正前と訂正後をそれぞれ添付し、訂正箇所には（下線）を付して表示しております。

記

1. 訂正を行う決算短信（非連結）の概要
決算期：平成19年２月期（平成18年３月１日～平成19年２月29日）
公表日：平成20年11月20日

以　上

（2）次期の見通し

（百万円）　（円）　（%）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益	自己資本当期純利益率
平成20年2月期	64,114	4,793	4,849	2,839	234.37	12.5
平成19年2月期	62,582	**4,597**	**4,619**	**2,738**	**228.51**	**13.8**
増加率	2.4%	**4.3%**	**5.0%**	**3.7%**	―	―

今後の見通しにつきましては、生産、所得、支出の好循環のメカニズムが維持されており、景況が引続き緩やかな拡大を続ける可能性が高いものと思われますが、当業界は、景気回復の恩恵を享受することも少なく、業態を超えた再編、競合激化、低価格傾向が続くことが予測されます。

当社といたしましては、創業50周年の節目として、「伝統の継承・未来の創造」を標榜し、現場主義を再徹底し、社員1人1人が、お客様の望んでいることを察知すること、売ることの喜びを体感すること、店舗の特性をいかした戦略を徹底すること等により、お客様のご支持を更に拡大するという原点に立ち、既存店舗の強化を中心に推進してまいります。具体的には、「こだわり商品企画」と「店舗別部門別販売コンクール」の継続、本年1月より開始した「毎月7日はオオゼキの日」の定着化、営業本部による店舗クリニック等を、創業50周年のお客様感謝企画とともに、実施してまいります。

業績予想といたしましては、平成20年2月期は、売上高641億14百万円（前年同期比2.4%）、営業利益47億93百万円（同**4.3%**）、経常利益48億49百万円（同**5.0%**）、当期純利益28億39百万円（同**3.7%**）の19期連続の増収増益を見込んでおります。なお、既存店売上高の前年対比は101.6%を前提としております。なお、本項における将来に関する事項は、本決算短信公表日現在において当社が判断したものであります。

（3）財政状態

当期における現金及び現金同等物（以下「資金」という）につきましては、収入の主なものといたしまして、税引前当期純利益が46億02百万円（前期比4億84百万円収入増）があり、支出の主なものは新店設備等有形固定資産の取得による支出4億25百万円（同10億15百万円支出減）等がありました。その結果、前期末と比較して36億71百万円増加し102億30百万円となりました。当期におけるキャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果、得られた資金は43億45百万円（同13億27百万円収入増）となりました。この内訳は税引前当期純利益が46億02百万円（同4億84百万円収入増）あり、店舗増加に伴う減価償却費が5億46百万円（同79百万円収入増）、仕入債務の増加が1億65百万円（同5百万円収入減）及び法人税等の支払による支出が16億62百万円（同2百万円支出減）発生したことによるものであります。

（訂正後）

（2）次期の見通し

（百万円）　（円）　（%）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益	自己資本当期純利益率
平成20年2月期	64,114	4,793	4,849	2,839	234.37	12.5
平成19年2月期	62,582	**4,587**	**4,608**	**2,727**	**227.60**	**13.7**
増加率	2.4%	**4.5%**	**5.2%**	**4.1%**	－	－

今後の見通しにつきましては、生産、所得、支出の好循環のメカニズムが維持されており、景況が引続き緩やかな拡大を続ける可能性が高いものと思われますが、当業界は、景気回復の恩恵を享受することも少なく、業態を超えた再編、競合激化、低価格傾向が続くことが予測されます。

当社といたしましては、創業50周年の節目として、「伝統の継承・未来の創造」を標榜し、現場主義を再徹底し、社員1人1人が、お客様の望んでいることを察知すること、売ることの喜びを体感すること、店舗の特性をいかした戦略を徹底すること等により、お客様のご支持を更に拡大するという原点に立ち、既存店舗の強化を中心に推進してまいります。具体的には、「こだわり商品企画」と「店舗別部門別販売コンクール」の継続、本年1月より開始した「毎月7日はオオゼキの日」の定着化、営業本部による店舗クリニック等を、創業50周年のお客様感謝企画とともに、実施してまいります。

業績予想といたしましては、平成20年2月期は、売上高641億14百万円（前年同期比2.4%）、営業利益47億93百万円（同**4.5%**）、経常利益48億49百万円（同**5.2%**）、当期純利益28億39百万円（同**4.1%**）の19期連続の増収増益を見込んでおります。なお、既存店売上高の前年対比は101.6%を前提としております。なお、本項における将来に関する事項は、本決算短信公表日現在において当社が判断したものであります。

（3）財政状態

当期における現金及び現金同等物（以下「資金」という）につきましては、収入の主なものといたしまして、税引前当期純利益が46億02百万円（前期比4億84百万円収入増）があり、支出の主なものは新店設備等有形固定資産の取得による支出4億25百万円（同10億15百万円支出減）等がありました。その結果、前期末と比較して36億71百万円増加し102億30百万円となりました。当期におけるキャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果、得られた資金は43億45百万円（同13億27百万円収入増）となりました。この内訳は税引前当期純利益が46億02百万円（同4億84百万円収入増）あり、店舗増加に伴う減価償却費が5億46百万円（同79百万円収入増）、仕入債務の増加が1億65百万円（同5百万円収入減）及び法人税等の支払による支出が16億62百万円（同2百万円支出減）発生したことによるものであります。